

Vol.44



「プラザIMS」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

いまさらちょっと人には聞きにくい

病院のQ&A



当院ご利用にあたって、様々な疑問点をお持ちである皆様に、今回リハビリテーション科・検査科・放射線科の3部署より、本紙にて患者様からよくある質問をピックアップし、回答させていただきます。ぜひご参考にしてください。

リハビリテーション科とは

病気、けが、または障害によって失われた身体機能や日常生活能力を回復し、より良い生活を送れるようにするための訓練や支援のことです。リハビリテーションの目的は機能回復、日常生活の自立、社会参加等です。当院リハビリテーション科では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はもちろん、医師、看護師、ソーシャルワーカーなどが患者様の状態にあわせて適切な訓練や支援を提供し、患者様がより良い生活を送れるよう支援しています。



リハビリを開始するまでの流れはどうなっていますか？

リハビリを開始するには医師の診断が必要となります。
まずはご受診いただき、医師からリハビリの指示を受けてください。



リハビリを受けられる曜日、時間帯は決まっていますか？



外来のリハビリは月～土曜日まで行っており、ご希望のお日にちで受けることが可能です。
実施時間帯は月～金曜日は9:00～12:00、土曜日は9:00～12:00です。



どのくらいの期間リハビリ通院できますか？



疾患にもよりますが、3ヶ月～6ヶ月間通うことができます。



検査科

病院の検査科（臨床検査科）は、患者様の診断や治療に欠かせないさまざまな検査を行っています。当院の検査科では、患者様から採取した血液、尿、便などの検査を行う検体検査、患者様を直接検査する心電図、超音波、肺機能などの生理学検査、内視鏡を用いて胃、大腸を検査する内視鏡検査を行っています。



採血時にはこぶしを強く握ったほうが良いですか？



軽く握るだけで大丈夫です。採血時は血管を怒張（浮きだたせる）させる為に握っていただいており、軽く握るだけでも血管の怒張が促進される効果があります。細い血管では途中で手を開くと、血液の流入が止まってしまうことがある為、手は軽く握ったままでお願いします。



1回の採血量はどのくらいですか？



採血管の本数にもよりますが、1回 5~20mL 程であり、5mL、10mL、20mL の血液が入るシリンジを用いて採取しています。シリンジの中に入っていると採血量が多いように見えますが、大さじ 1~2 杯ほどの量です。血液は、水分を摂取することにより短時間で回復し、1 日に作られる血液量のほうが採血で失われる量よりも多い為、通常貧血になることはありません。



血液の色が黒っぽかったですがそれは何故ですか？



血液成分のうち赤血球は、肺で酸素を受け取り、体中に酸素を届ける役割をしています。赤血球を構成しているヘモグロビンは赤色をしていますが、酸素と結びついた時は鮮やかな赤色に、酸素を手放したときは暗い色になります。採血では、酸素を持っていないヘモグロビンが多い血液（静脈血）を採取している為、血液の色が黒くみられます。



採血後に青あざができたのですが何故でしょうか？



青あざは血管から血液が漏れ出て、皮下で内出血してしまった状態であり、抗凝固剤を服用している方や血管がもろい方に多い症状です。採血後の圧迫が不十分であると漏れ出る血液量が多くなる為、採血後はテープ・絆創膏の上から 5 分間しっかりと圧迫する必要があります。



超音波検査（エコー検査）はどのような検査ですか？



超音波検査はリアルタイムで臓器の動きを見ることができ、臓器の大きさや構造、腫瘍、結石などを様々な角度からみることができる検査です。

例えば、心臓の拍動に合わせて弁の開閉がうまくできているか、血液の逆流が起きていないか、足の静脈を押して弾力があるかを動画として見ることで血管内に血栓がないかを確認することもできます。

ただし、超音波は性質上空気を通過しにくく、骨は超音波を反射してしまう為、体の深い位置にある臓器ほど見えにくくなります。その為、状況によって他の検査を併用することがあります。



放射線科とは

放射線を使って病気の診断や治療を行う診療科です。画像診断と放射線治療の2つの分野があります。当院では、画像診断（CT、MRI、X線写真、超音波検査（エコー））を実施しています。画像検査を行い、病気の診断をします。医師と診療放射線技師などの専門的なスタッフがあり、患者さんの安全を確保しながら、画像検査を行います。



被ばくはどれくらいありますか？



胸のレントゲン検査1回あたり約0.08mSv、肺のCT検査（肺ドック）は約0.3mSvあります。（検査外の比較被ばく例：飛行機で海外へ行く（往復）約0.3mSv、日本の年間自然放射線約2.1mSv、イラン、インド等での年間自然放射線 約10mSv以上）

上記から分かる通り、旅行の方がレントゲン検査より被ばくしていることが分かります。検査内容にもよりますが、1回の検査による被ばくは少ない為、同日に複数回検査することになったとしてもご心配には及びません。



各検査時間はどれくらいかかりますか？



レントゲン検査は1分～10分、CT検査は5分～20分、MRI検査は15分～1時間ほどかかります。



服装等身に付いているもので気をつけることはありますか？



レントゲン検査・CT検査は、検査の範囲内に金属類がなければ大丈夫です。ただし体内に金属がある場合は検査ができない可能性がありますので、事前に担当スタッフまでご相談ください。

MRI検査は、MRI室への金属類は持ち込みは禁止である為、服や装飾品、貴重品等で身に付いているものを事前にご確認ください。

（検査前には問診票の記載内容を十分に確認していただき、検査担当より問診いたします。）

また、過去に受けた手術内容は事前に把握しておいてください。他施設で手術された場合は、事前にどのような手術を受けたか、体内に金属がある場合はMRI対応のものか、確認をお願いいたします。



今回よくある質問をピックアップし特集としましたが、本紙による質問はごく一部ではありますので、その他不明な点がございましたら担当者までお気軽にご質問ください。



2025
年度

～健診センターより～

特定健診に関するお知らせ

当院では毎年特定健診の受け入れを行っており、現在がん検診の受け入れを含め予約受付中でございます。

今年度の国民健康保険での特定健診期間は 2025年6月1日～2025年11月30日まであり、例年締め切り期日に近づくほど駆け込みでの受診希望者様が多い傾向にあります。本健診は事前予約制であり、1日の受け入れ人数の制限もございます。ご予約が集中することによって予約が困難となり、ご対応できなくなる可能性もございますので、お早目の時期でのご予約をお勧めいたします。

9月～11月は混雑が予想されますので6月～8月の受診をおすすめします。

■ご予約について(事前予約制)

直接来院による受付窓口でのご予約は可能ではございますが、当日の健診予約者様のご案内を優先する為、長時間お待たせする場合がございます。その為、お電話でのご予約をお勧めいたします。

■その他健診対応について

当院では、各種ドックや乳がん検診、企業健診・個人健診(雇入れ時・定期健診など)など、幅広く健診対応しております。ホームページに掲載されていない健診項目につきましては随時お受け入れが可能か否か検討いたしますので、まずは当院健診センターまでお気軽にご相談ください。



— 基本検査項目 —

- 問診
 - 身体測定（身長・体重・腹囲・BMI）
 - 血圧（収縮期・拡張期）
 - 血液検査
脂質（中性脂肪・HDLコレステロール・LDLコレステロール）
肝機能（GOT・GPT・γ-GTP）
血糖（空腹時血糖・HbA1c）
貧血（赤血球数・血色素量・ヘマトクリット・白血球数）
腎機能（血清クレアチニン・eGFR・尿酸）
 - 尿検査（尿糖・蛋白・潜血）
 - 心電図
 - 眼底検査（実施には条件あり）
- がん検診と同時受診が出来ます。

ご予約・お問い合わせ

049-265-3191 (健診直通)

049-265-3191 (FAX)

24時間救急対応

お問い合わせ先 **049-258-2323(代)**

救急の場合は24時間体制で、できる限り対応しております。 診察可能かどうか必ずお電話で確認してください。



イムス三芳総合病院

埼玉県入間郡三芳町藤久保 974-3

2025(令和7)年7月発行 発行責任者:イムス三芳総合病院 広報委員会 Vol.44